

平成 28 年 6 月 24 日 開会

平成 28 年度 第 3 回紫波町教育委員会定例会会議録

紫波町教育委員会

平成 28 年度 第 3 回紫波町教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成 28 年 6 月 24 日 午後 4 時から午後 4 時 30 分
- 1 場 所 紫波町役場 会議室 305
- 1 出席委員 委員 長 高 橋 榮 幸
職務代理者 森 田 英 仁
委 員 松 川 久 美
委 員 滝 澤 真 千 子
教 育 長 佐 美 淳
- 1 説 明 員 教 育 部 長 石 川 和 広
生涯学習課長 俵 正 行
国体推進課長 八重嶋 靖
こども課長 吉 田 真 理
学校給食センター所長 藤 尾 好 子
こども室長 須 川 範 一
学習推進室長 谷 地 和 也
学務室長 葛 博 之

付議事件

日程第 1 会期の決定について

日程第 2 報告第 1 号

「紫波町学校教育審議会の審議概要について」

議事の概要

(開会 午後 4 時)

○ 高橋委員長

これより会議を開きます。

本日の出席者は 5 名でございますので、会議は成立いたしました。

本日の会議日程は、あらかじめ皆様方に配付されているとおりでございます。

それでは、ただ今から平成 28 年度第 3 回紫波町教育委員会定例会を開会いたします。

日程に入るに先立ちまして、教育長から報告をお願いいたします。

○ 佐美教育長

(平成 28 年度第 2 回教育委員会定例会から本日までの教育委員会関係行事について報告)

○ 高橋委員長

日程第 1、「会期の決定について」を議題といたします。

お諮りいたします。

今定例会の会期は、本日 1 日限りといたしたいと思いますが、これにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

- 高橋委員長
異議なしと認めます。
よって会期は、本日1日限りと決定いたしました。
- 高橋委員長
次に、日程第2、報告第1号「紫波町学校教育審議会の審議概要について」を議題といたします。
提案者の報告を求めます。
- 佐美教育長
小中学生の数ですが、平成元年度約3,800人に対し、平成28年度をみますと約2,700人と、この28年で約1,100人減少しています。それから、小学校のほうを見ていただければ分かるのですが、平成元年度は星山小学校を除き、他の学校については100人を超えており、それなりのクラス編成が可能でした。ところが平成28年度の実績をみますと、やはり東部、西部の学校が激減しております。平成34年度までの数値に関しては、紫波町在住で子どもの生まれた数を入れ込んでおりますので、転入や転出がない限り、この数値でいくだろうという実数です。
学校教育審議会の経緯ですが、人選等がありまして、第1回目が9月となりました。審議内容については、学校規模によるメリット・デメリット、赤石小学校と赤沢小学校の学校訪問、ワークショップを行いました。直近の6月22日の審議会では、オガールプロジェクトとは何か、仕掛け人はどういう人でその思想を知りたい、それが教育に活かされるのではないかとということでオガールプラザの岡崎社長から講話をいただき、さらには、外国人の視点からということで外国語指導助手(ALT)のミカさんから講話をいただいたところです。
次の資料は、児童生徒が卒業して働く10年後、20年後の世の中はどんなになっているのか、つまり学校を卒業したあとの話です。そのために子どもたちがどんな力をつけるべきでしょうかという諮問をしました。
国レベルでは、これからの世の中は厳しい時代であり、今覚えている知識は破綻するので、知識の獲得よりは分からないことにぶつかったときにどうやって調べたり協力したりしてそこを乗り越えていくかということが大切だと述べられております。今の学校教育の「生きる力」というのはまさにそれですね。
次が未来学者の話ですが、今の仕事は半分以上なくなると言っています。職業がもうなくなると。私たちが子どもの頃にあった職業はもうなくなっていますよね。でも、私たちは同時進行で生きているので、なくなったこと自体も分かっていません。しかし、30年、40年のスパンで見ると当時あった職業が、今はありません。そして、今後ロボット化だとかIT化がもっと進み、今後の10年から20年で50%の仕事が自動化される可能性が高いという予測となっております。
このことを前提として、次代を担う児童生徒が身につけるべき資質・能力とは何なのか。審議会では、学力とか体力だけではなくて、やっぱりこういう力は大事だよねとか、紫波町なりの地域課題についても話し合いを進めております。
- 葛学務室長
それではチラシをご覧ください、懇談会「今後の紫波町学校教育の在り方を考える会」でございます。7月1日と7日の両日開催ということで、内容的には同じものとなっております。申し込みは不要です。テーマは「町の子どもたちが小

中学校で身に付けるべき資質・能力とは何か」というものです。情報交流館の大スタジオで開催いたします。周知としては、まず各学校 PTA、町内の保育所・児童館等、町議会議員にも開催の周知をしております。さらに、今月の広報お知らせ版、プレスリリース、町のホームページ、有線放送、教職員向け・役場職員向けにも掲示板にて情報提供をしております。7月1日、7日の運営について、当日は午後6時半からでございますが、まず諮問の経緯、児童生徒の現状、先ほど教育長から話のあった今後の社会についてご説明をし、この懇談会の目的、審議経過の説明、懇談会の全体的な進め方、そして資質・能力についてご説明いたします。その後、懇談となります。最後にスケジュールでございます。7月1日と7日については、第7回、第8回として位置づけ、それを受けまして8月2日に第9回審議会を開催し、答申案の審議をしていただきたいと思いますと考えております。最終的には9月に学校教育審議会から教育委員会へ答申を提出していただく予定です。以上です。

- 高橋委員長
これより質疑に入ります。
- 森田委員
「今後の紫波町学校教育の在り方を考える会」では、参加者の方々が直接意見を述べる時間はどれくらいとっているのでしょうか。
- 葛学務室長
概ね1時間としております。
- 高橋委員長
ほかにございますか。
- 森田委員
基本的に教育委員会という組織の中で考えていくことに異論はございません。ただ常々思うのは、色々なパターンの理想的な子どもたちが成長する中で、それが紫波町にどの程度役立っていくのだろうということです。総合教育会議で出たグローバルな子どもを育てるということもあるのですが、残したい人材を育てるのか、それとも世界に羽ばたく人材を育てるのか、あるいは両方育てるのかということで、人口減少は町全体で考えていくことでそこに教育委員会が関わっていくのだと思います。今、聞いていると教育委員会が一手に背負っているようでそのあたりがよく分からないのですが。
- 佐美教育長
懇談会でもそういう意見が出ました。産まれる仕組みをどうするかというのはまったくこれは役場の問題です。グローバルと地域貢献という観点からすれば、オガールプラザの岡崎社長は戻ってきた人なわけです。だから、例えば、そういう生き方も含めて地域へ貢献する、あるいはIT化が進めば町外にいたとしても職業はどうであれ、紫波町との関わりが持てるわけです。いずれにせよ、紫波町、ふるさとを思いつつ仕事をしていく人材を育てていくことだと思えます。
- 滝澤委員
懇談会は申込不要ということですが、どのくらい見込んでいるのでしょうか。
- 葛学務室長
全町民を対象として、全2回で約80人を見込んでおります。
- 滝澤委員
先日赤石地区の懇談会に参加しましたが、半分くらいは民生委員だったり、議

員だったりで実際に子育てをしている親御さんは半分くらいでした。子育てをするのは親なので色々な親に考えてもらいたい中身だと思ったので、もっと親御さんに参加してもらえる呼び込みができればいいなと思いました。

○ 侘美教育長

小学校に入学する前の親御さんや組織にも働きかけておりました。どういう関心の度合いかということも知ることが出来ますので。

○ 高橋委員長

その他、ございますか。

質疑を打ち切ります。

報告第1号「紫波町学校教育審議会の審議概要について」は以上でございます。

以上をもって付議事件の審議は、終了いたしました。

続いて、その他に入ります。

事務局から説明願います。

○ 事務局からの事務連絡等（葛学務室長）

- ・教育委員会7月定例会開催について
- ・総合教育会議について
- ・紫波郡地方教育委員会連絡協議会研修視察について

○ 高橋委員長

他に何かございませんか。

（「なし」の声あり。）

○ 高橋委員長

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。これで平成28年度第3回紫波町教育委員会定例会を閉会いたします。

（閉 会）

（閉会 午後4時30分）